

球根付きのチューリップ販売は大盛況でした。→



横越町観光特産品販売組合たもぎの里で 毎年春の恒例イベント開催

4月25日、横越町観光特産品販売組合「たもぎの里」(沢海2丁目)で、チューリップフェアが開催され、家族連れなど町内外からたくさんの人たちが訪れました。

地元への感謝と店のアピールを目的に、毎年この時期に開催されている恒例のイベントです。赤やピンク、黄色など色とりどりのチューリップが店先に飾られ、各店舗では、鮭の味噌漬、山菜やワカサギの天ぷら、トッピングアイスなどこの日限りのサービス品、ネギやニンジンなどの野菜、球根付きのチューリップやイチゴ苗の販売、どら焼きの実演販売などが行われたほか、ポップコーンやパンの無料サービス、フリーマーケットや輪投げゲームなども行われました。天候が良かったため、屋外のテーブルを囲んで団らんする人の姿もありました。

たもぎの里では、11月30日までの午前9時から午後5時まで、全店で営業を行っています。冬期間も一部の店舗では営業を行っています。

小学6年生、チューリップ染めに挑戦 白いハンカチーフがやさしい黄色に大変身

横越小学校6年生113名は、来年の卒業式で胸に付けるコサージュを作るため、チューリップ染めに挑戦しました。

4月21日、農家の協力により休耕田を利用し作付けされ、満開となった黄色のチューリップの花6,000本を摘みました。その後、茎やめしべなどを取り除き、ビニール袋に花びらと酢酸を入れてよくもみ、色素を抽出するため、約2週間、ポリバケツでじっくり寝かせました。

5月6日には、この抽出液を使ってチューリップ染めを行いました。子どもたちは、子ども活動支援ボランティアから説明を聞き、温度を確かめながら45cm四方のハンカチーフを染めました。その後、薬品で発色させ、水洗いし、アイロンで乾かして完成。染めた黄色いハンカチーフを使ってのコサージュ作りは、来年1月に行う予定です。

コサージュ作りは、チューリップが町の特産物となっていることを知るとともに、やさしい心を育てることを目的に毎年行われているもので、今年で14回目となりました。



雨にも寒さにも負けず大熱戦 第8回横越町長杯争奪ゲートボール大会

5月11日、横越町ゲートボール協会の主催による横越町長杯争奪ゲートボール大会が、総合体育館のゲートボール場で開催されました。大会には、6チーム35名が参加。この大会は、ゲートボールを通して、楽しみながら健康の維持と親睦を図ることを目的に開催されています。

町ゲートボール協会の大森会長のあいさつや渡辺助役などの激励のあいさつに続き、阿部三喜男さんから「ゲートボールマナーを重んじ、正々堂々とプレーすることを誓います」と力強い選手宣誓があり、プレー開始。前半では、郡大会へ進出できる3チームの枠をめぐる熱戦が繰り広げられ、後半では、各所属チームの枠を越えて混合でチームを再編成し、親睦を深めながらゲームを楽しみました。小雨が混じる肌寒い天候のもと開催されましたが、参加者たちは元気にプレーを行っていました。

◆優勝：二本木A、準優勝：こぶし(木津)、第3位：二本木B



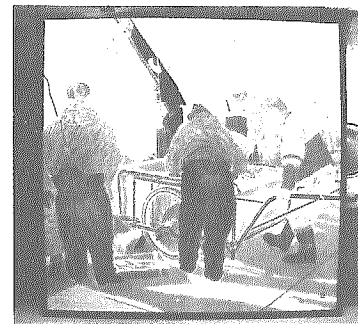
元横越町外国語指導助手(LT)のブリジット・ハンクスさんが、5月6日、娘のヘーティちゃん(1歳4か月)とともに役場を訪れ、町長を表敬訪問しました。

ロス在住 元横越町外国語指導助手 ブリジット・ハンクスさん 親子で来町、再会を喜ぶ

浅見町長から歓迎の言葉を贈られ、ブリジットさんは「日本はとてもきれいです。横越は一番きれいで、良い思い出もあり、横越の人が好きです」と、久しぶりに帰ってきた横越の感想を、日本語で話しました。ブリジットさん親子は、はるばるアメリカ・ロサンゼルスより、4月30日に来日。5月1日から9日まで横越で過ごし、新しくなった中学校や竹のこフェアなどを訪れて、多くの人たちと再会を喜び合い、また、保育園ではヘーティちゃんが園児たちと仲良く遊ぶ場面もありました。ブリジットさんは、平成12年8月から平成13年7月までの1年間、ALTとして中学校、小学校、中央公民館で、英語の指導を通して子どもたちや町民と交流。また、各種イベントに参加したり、春のイベント「夢さがし よこし チューリップ Tulip 2001」で結婚式を挙げて祝福を受けるなど、多くの方々から親しまれていました。

なお、ブリジットさん親子は、5月12日に無事帰国しました。

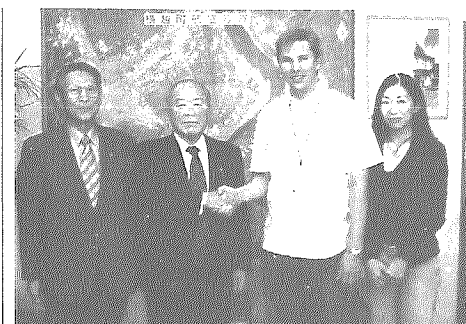
浅見町長から歓迎の言葉を贈られ、ブリジットさんは「日本はとてもきれいです。横越は一番きれいで、良い思い出もあり、横越の人が好きです」と、久しぶりに帰ってきた横越の感想を、日本語で話しました。ブリジットさん親子は、はるばるアメリカ・ロサンゼルスより、4月30日に来日。5月1日から9日まで横越で過ごし、新しくなった中学校や竹のこフェアなどを訪れて、多くの人たちと再会を喜び合い、また、保育園ではヘーティちゃんが園児たちと仲良く遊ぶ場面もありました。ブリジットさんは、平成12年8月から平成13年7月までの1年間、ALTとして中学校、小学校、中央公民館で、英語の指導を通して子どもたちや町民と交流。また、各種イベントに参加したり、春のイベント「夢さがし よこし チューリップ Tulip 2001」で結婚式を挙げて祝福を受けるなど、多くの方々から親しまれていました。



全国水墨画会主催、新潟県・新潟市などが後援の「第13回全

水墨画美術展で参議院議長賞受賞 役場出納室勤務の駒田康さん

全国水墨画会主催、新潟県・新潟市などが後援の「第13回全 国水墨画美術展」に、横越町役場出納室に勤務している駒田康さん(55歳)が出席した「漁港」と題した作品が、参議院議長賞を受賞しました。作品は5月11日から16日まで県民会館で展示されました。この作品は、1坪ほどの大きさで、小さな漁港での水揚げ作業の様子が描かれています。また、「海辺の町」(畳半分ほどの作品)、「だるま」(掛け軸)も



横越出身の志保・メンカリ二さん 夫婦そろって町長を表敬訪問

佐藤三三町議会議員のお孫さんで、アメリカ・ロサンゼルス在住の志保・メンカリ二さん(旧姓 原野)と夫のトニー・メンカリ二さんが、5月24日、役場を訪れ、町長を表敬訪問しました。6年前、結婚式を前に表敬訪問を受けた浅見町長から、「ようこそいらつしやいました。久しぶりでですね」と歓迎のあいさつがありました。志保さんは、故郷である横越町の姿について、住宅団地が増え、商店も多く立ち並び、以前と比べて発展していることに驚いた様子でした。また、トニー

ご厚志に感謝

横越ライオンズクラブ(光根忠士会長)より、町の福祉に役立ててほしいと、同クラブ主催チャリティゴルフ大会の寄附金5万8,000円が贈られました。大変ありがとうございました。

同時に入選し、5月16日に表彰式が同会場で行われました。駒田さんは「受賞にびっくりしています。気張らず長く水墨画を続けてきたことが賞に結びついたと思っています」と感想を語っていました。以前は水彩画や油絵も趣味だったそうで、水墨画は15年ほど前から描いているそうです。

さんは上手な日本語で、「横越は雰囲気良く、人が優しく、空気がおいしい」と話し、新潟の印象やビッグスワンでのサッカー観戦した際のすばらしさを語ったほか、合併が来年に控えていることを聞き、「合併後、庁舎はどうなるのですか」などと尋ねていました。メンカリ二夫妻は、5月22日に来日し、31日に無事帰国しました。